



月に2度の練習は、まず腕立て伏せから。次は腹筋、そしてスクワットと基礎体力づくりも欠かせません。「采を持っても風で飛ばされないように」と指導する伊豆田光弘さん。大切なことは何よりも挨拶、そしてへタでもいいから声を出すこと。

練習は前回のお白石持行事が終わったあとも、絶やさずに継続しています。子供木遣りで練習を重ねた子が、次の本番では青年木遣りに参加したり、一之木の伝統を受け継いでいます。

兄弟町である小川町と船江と合同で初詣や年末の神宮参拝に出かけ、交流が盛んです。その都度、唄を披露し木遣りの節回しが体に染み付いているようです。



兄弟町との初詣で木遣り唄を響かせる

一之木町須原団子供木遣

師匠の藤原一昭さんが見守る中、子どもたちは元気いっぱい唄い上げ、大人は合いの手を入れて応援します。「思った通りに唄えると嬉しい」「おじいちゃんが木遣りだったので僕も始めました。未来に伝えていきたいです」と頼もしい発言も。「塾とかぶらないよう曜日を变更后、月2回程練習しています」と保存会会長の久保圭一さん。



10月の初穂曳に参加し、12月の婦人会のバザーではお木曳車を組み立て、子ども木遣りの先導で試し曳。1月のかさもり稲荷の大祭でも毎年披露。郷土愛あふれる子どもたちに育てほしいと大人が発表の場を作っています。



初穂曳に参加して元気いっぱいに先導

浦口町お木曳保存会

レポート お木曳にむけて がんばる子どもたち



別宮の御敷地に納められる御用材



増水のため宇治橋のたもとで曳き入れた。本来は御手洗場から



外宮神域まで運び込まれる

Q 役木は何本曳くの？

川曳では内宮御正殿が3本と荒祭宮や風日祈宮、月読宮に倭姫宮などの別宮に1本ずつで計10本、陸曳では外宮御正殿に3本

Q 役木って何のこと？

御用材の中でも特に重要な木で、御正殿の垂木や別宮の棟持柱など、お役目がはっきりしている木のことなんだ。

役木曳「やくぎびき」

2年間にわたるお木曳行事に先駆けて行われるのが「御木曳初式」で、通称「役木曳」と呼ばれています。

Q どのへ運ぶの？

と多賀宮、土宮、風宮、月夜見宮の別宮に1本ずつで計7本運ぶよ。遠宮の瀬原宮や伊織宮でも行われているんだ。

Q 決まり事はあるの？

そりや車から御用材を下ろすときの指示は目で合図を送ったりと、神域内では声を出すことが禁じられているので、息の合ったチームワークが必要なんだ。

役木曳の前年には、御樋代木奉曳式といって木曾・裏木曾の御杉山で伐採された「御樋代木（こしんたいぎ）を納める器の用材」を両宮域内に曳き入れる儀式があったり、役木曳を終え、第1次・第2次のお木曳本番のことを「本曳」と呼んだりします。

出会いはお木曳、次回は子どもたちと一緒に奉曳できることを楽しみに

織戸さん一家〔河崎六ヶ町・陸曳〕



隆光さん、るり子さん、穂高くん、弥尋くん

お木曳で知り合った2人。「遷宮行事はつながりも作れる場。知り合いがたくさんできました」と隆光さん。それが子育てにも役立ち、生活の潤いとなっているようです。「奉曳車があるまちに嫁ぎたい!」と結婚に求める伊勢ならではの条件があったと話す、るり子さん。20代で伊勢音頭などの文化に触れ、穂高くんと実家の宮後町でも地方の三味線の演奏で参加予定です。「楽しんで経験したら次につながる」というのが織戸さん夫婦の考えです。

神宮さんわたし伊勢のまちが大好きです

次号も遷宮行事にアツイ職場を訪問いたします。

職場訪問／鈴工



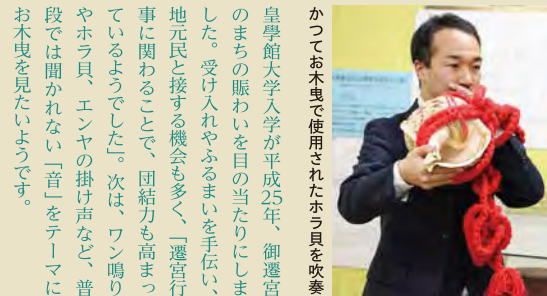
代表取締役 牛場 正人さん

「会社がある大湊は川曳・陸曳の両方に奉仕できる特別な地区。先代も神宮行事に熱心でしたので、誉なことと思ひ参加しています」と牛場正人社長。東京からUターンし、現・会長より経営と理念を引き継ぎ、30歳を過ぎた頃、伊勢のことを知りたいたと『古事記』に興味を持ち、「日本の国の成り立ちの中で、伊勢の大切さが分かり、御遷宮への思いも深まりました」。初穂曳に



鮮やかな黄緑の鈴工ははっぴで、初穂曳にも参加

は全社員が参加。前回御遷宮時には取引先にも声を掛けました。社員の絆を強め、地元の人々ともつながることで、地域とより深い関わりを持てる企業でありたいと考えています。



新田 恵三さん〔量學館太学助手〕

かつてお木曳で使用されたホラ貝を吹奏皇學館大学入学が平成25年、御遷宮のまちの賑わいを目の当たりにしました。受け入れやふるまいを手伝い、地元民と接する機会も多く、「遷宮行事に関わることで、団結力も高まっているようにでした。次は、ワンダリーやホラ貝、エンヤの掛け声など、普段では聞かれない「音」をテーマにお木曳を見たいようです。



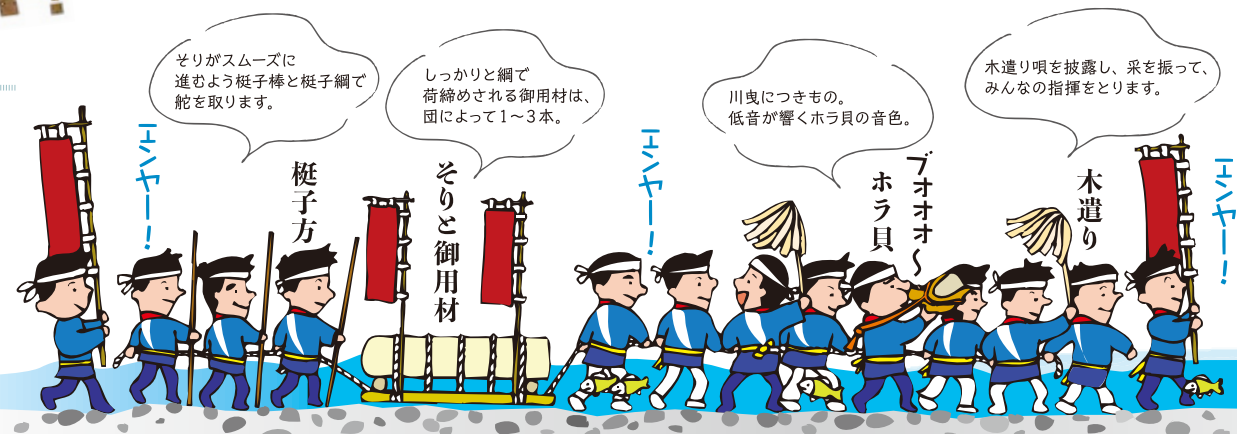
鈴工さんのお誘いで大湊で参加
井上 嗣夫さん〔名古屋市・井上電設(株)〕
(写真一番左が井上さん)

伊勢ならではの神聖で特別な行事御遷宮が高めるまちの団結力

木材産業に深く関わる大湊の歴史にも感銘した出発式の挨拶

お木曳分析！ 御用材奉曳

総出でそれぞれの役割を担う御用材奉曳。一般的な川曳をご紹介します。



木遣り唄を披露し、采を振って、みんなの指揮をとります。

川曳につきもの。低音が響くホラ貝の音色。

しっかりと綱で荷締めされる御用材は、団によって1〜3本。

ぞりがスムーズに進むよう梃子棒と梃子綱で舵を取ります。